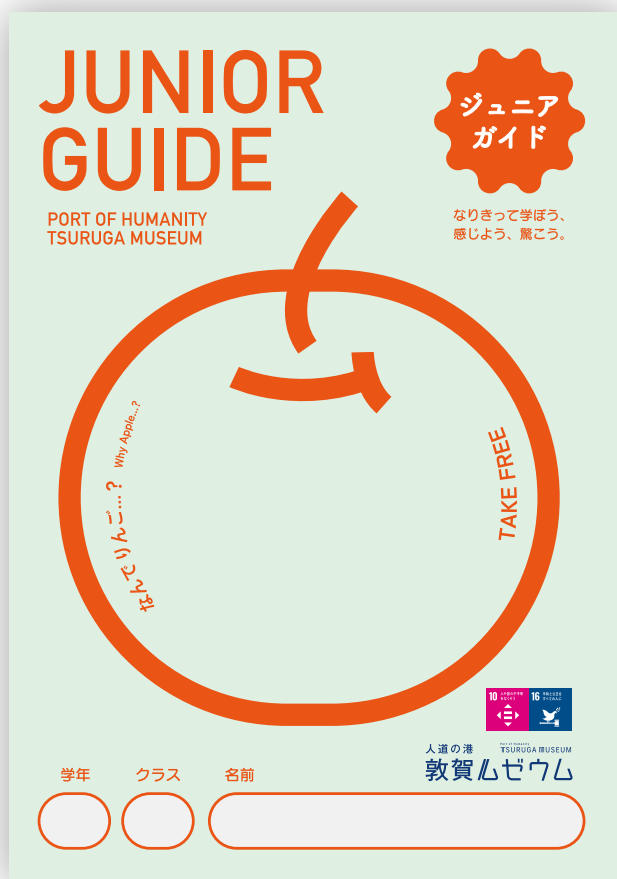


# JUNIOR GUIDE

## 人道の港 敦賀ムゼウム 見学及びジュニアガイド活用の ポイント・解説

(引率者様向け)



人道の港  
敦賀ムゼウム

Port of Humanity  
TSURUGA MUSEUM

## 目次

はじめに .....	P 1
ジュニアガイドのコンセプトについて .....	P 2
館内展示の流れ .....	P 3
見学にあたって .....	P 4
ポイント解説 .....	P 5～10
ムゼウム周辺での学習 .....	P 11
メモ用紙（印刷用）	

---

## はじめに

ジュニアガイドおよび本解説は、人道の港 敦賀ムゼウムと館内のガイド活動にも取り組んでいただいている敦賀高校創生部の卒業生（re/CREATIVE）との協働で制作したものです。楽しくわかりやすく学べるよう、卒業生である学生がガイドを行っていた際の経験を活かした内容となっており、主に小学校5年生以上を対象としていますが、4年生以下の児童や大人の方も含め、幅広い世代の方にご使用いただけます。

本引率者様用資料は、制作に携わった学生がジュニアガイド制作のコンセプトや注目していただきたいポイントをまとめ、引率の際の参考にしていただきたく作成したものです。



<https://tsuruga-museum.jp>

※ジュニアガイドは人道の港 敦賀ムゼウムの受付にてお渡ししています。

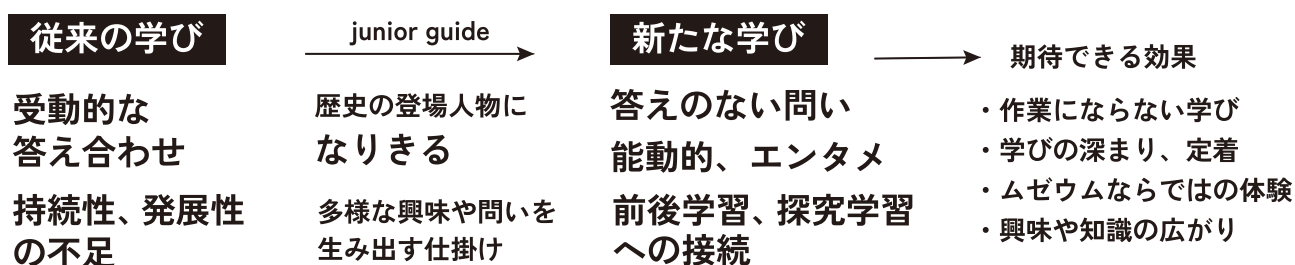
※ご利用案内、団体予約などはムゼウム公式サイトをご覧ください。

## ジュニアガイドのコンセプトについて

本ジュニアガイドは「なりきって学ぼう、感じよう、驚こう。」をテーマとしています。そのテーマに沿って、「01 大陸への玄関つるが」では、47日間かけてヨーロッパへ向かった当時の乗客に“なりきる”、「02 ポーランド孤児」ではポーランド孤児に“なりきる”といったようにブースごとに“なりきる”体験を通じて、想像や学びのきっかけを提供します。ジュニアガイドを活用することで、様々な角度から敦賀市やポーランド孤児、ユダヤ難民について考えることができるほか、当事者意識を育み、歴史を第三者の視点で“学ぶ”だけではなく、当事者の視点から“感じ、驚く”学習へと発展させることが期待できます。

ジュニアガイドの多くの問いには、明確な答えがありません。「どのように感じたか」「何に驚いたか」といった、その時々感情を言語化し共有することで得られる体験や学びに重点を置いています。また、表紙に描かれた抽象的なりんごのように、ジュニアガイドの随所に多様な問いかけを設け、個々の興味関心に基づくさまざまな疑問（モヤモヤ）が生まれる工夫を施しており、この点が、能動的な学びの獲得や、前後の学習を通じた自由な探究へとつながることを意識しています。そこで生まれた驚きや疑問、モヤモヤを出発点に、新たな探究へつなげたり、教科書での学習へと発展させたりすることができます。また、冊子を見ることで展示の重要なポイントを学べるようになっており、お持ち帰りいただくことで復習ができるほか、学びをご家族やご友人と共有することも可能です。

本ジュニアガイドが、学習者の皆さまの深い学びの循環の一助となれば幸いです。



## 館内展示の流れ

ジュニアガイドではより伝わりやすくするために一部構成を変更していますが、館内常設展示の流れは以下のとおりです。ぜひ展示の全体像を把握した上で、ジュニアガイドを活用、引率の際のご参考にしてください。

### ①シアター

ポーランド孤児やユダヤ難民が敦賀に上陸した史実について、簡潔に紹介する映像をご覧ください。

### ②大陸への玄関 敦賀港

古代から近代にかけての敦賀港の歴史を紹介しています。なぜポーランド孤児やユダヤ難民が上陸したのは「敦賀」だったのか、また、なぜ当時の敦賀の人々は外国人を温かく受け入れることができたのか、その背景を敦賀港の歴史を通じて知ることができます。

### ③ポーランド孤児

ロシア革命の動乱等により家族を失った「ポーランド孤児」について紹介しています。日本赤十字社が救済活動を行い、孤児たちはウラジオストクから船で敦賀へと辿り着きました。展示では、日本に到着した孤児たちの様子や、その後の人生についても詳しく取り上げています。

### ④ユダヤ難民

1940年代、ナチス・ドイツなどの迫害を逃れ、日本へと辿り着いた「ユダヤ難民」について紹介しています。彼らに日本通過ビザを発給した杉原千畝氏をはじめ、難民を支援した人々についてデジタル資料を交えて紹介しています。また、敦賀滞在中のユダヤ難民の様子や、敦賀市民の証言からうかがい知ることができます。

### ⑤ 2F 映像ライブラリー・平和へのメッセージコーナー

ポーランド孤児やユダヤ難民の受け入れは、単なる歴史上の出来事にとどまりません。現在も彼ら本人やご家族が、日本・敦賀を訪れ、歴史を辿っています。そうした訪問者と敦賀の現代における交流の様子などを映像で紹介しています。また、見学の感想や平和へのメッセージなどを記入して平和へのメッセージコーナーに掛けることもできます。

## 見学にあたって

### 1. じっくり観察してください

まずはじっくりと館内展示を観察してください。展示のすべての文章や情報を読み解くのは難しい場合があります。その際は、映像や写真、展示物などを活用し、「観察する」ことを意識してみてください。

### 2. 歴史の現地

人道の港 敦賀ムゼウムは、かつてポーランド孤児やユダヤ難民を受け入れた敦賀港の当時の位置に外観復元して建てられた資料館です。ここは、歴史が動いたまさに“現地”であり、そのことを意識しながら館内展示を見ていただくと、より深く感じ取れるものがあるでしょう。建物の入口付近には当時の港を説明する看板なども設置されています。

### 3. 「人」に注目

敦賀港の歴史を築いてきたのも、ポーランド孤児やユダヤ難民たちも、そして彼らを救おうと奮闘したのも、すべて“人”です。館内展示を見学する際には、どのような“人”が、どんな想いを抱いて行動したのかという視点を持つと、より興味深く感じられるのではないのでしょうか。当時を生きた人々に想いを馳せながらご覧ください。また、ジュニアガイドにも“人”に関する情報が多く紹介されていますので、ぜひ併せてご注目ください。

### 4. 何でもお聞きください

展示内容について疑問に思うことがあれば、些細なことでも構いませんので、ぜひ館内スタッフにお尋ねください。そうすることで、知識が深まるだけでなく、新たな視点から展示を理解するきっかけになるかもしれません。

## ポイント解説



注目ポイント

ジュニアガイド本誌について、制作に携わった学生達が込めた思いや注目していただきたいポイントをはじめ、設問の背景や回答例について紹介しております。ぜひ引率、前後学習の際にご活用ください。

### 裏表紙

世界地図では、展示に登場する各国の位置を確認できます。かつて神戸からロンドンまでの航路は、スエズ運河経由で47日かかっていました（青の点線）。しかし、欧亜国際連絡通路の開通により、その所要時間は大幅に短縮されたことが確認できます（赤の線）。

地図上で航路を線でなぞるなどして、変化を視覚的に確認してみてください。

### 表紙

Q. なんでりんご？

A. 杉原千畝氏が発給したビザを携えて、日本に辿り着いたユダヤ難民を、敦賀の人々がりんごを手渡して迎え入れたエピソードに基づき、「りんご」がムゼウムの象徴となっているからです。

この問いかけは、館内を巡る体験の中で、一貫した疑問として設定しており、抽象的なりんごのイラストも敦賀とユダヤ難民との関係を象徴する意味を持っています。また、人道の港 敦賀ムゼウムでは、この「りんご」をシンボルとして、タオルなどのオリジナルグッズ展開も行っています。

神戸からヨーロッパまでの道のり  
スエズ運河経由  
その航路を線で探いでみよう  
神戸-ロンドン47日

012

# JUNIOR GUIDE

PORT OF HUMANITY  
TSURUGA MUSEUM

りんご

Why Apple...?

TAKE FREE

学年

クラス

名前

人道の港 TSURUGA MUSEUM  
**敦賀ムゼウム**

10歳未満は無料 16歳未満は割引

人道の港 TSURUGA MUSEUM  
**敦賀ムゼウム**

TSURUGA MUSEUM JUNIOR GUIDE 発行：2022年11月14日

〒914-0022 福井県敦賀市本町23-1 TEL.0776-37-1025 FAX.0776-37-1036

本ガイドは「F&S」の協賛による。©2022 敦賀ムゼウム。制作：CREATIVE

ムゼウム公式サイトはこちら

## ポイント解説

### 1P 導入 / 使い方

Q. 体験型モニターとは？

A. 当時の新聞記事や、杉原千畝氏が発行したビザをデジタル資料として閲覧できます。当時の様子をより深く知ることのできる貴重な資料です。

### 2P 00 言葉の意味

学習を進めるうえで、館内には難しい言葉が多く登場します。理解を深めるために、学習を始める前に児童・生徒の皆さんと主な用語の意味を確認できるページを設けています。言葉の定義は人道の港 敦賀ムゼウムにおける複数の情報を参考に、検討し記載していますが、簡単に説明できる言葉でないからこそ、それぞれの考えや立場を踏まえて、解釈することが重要となります。

## ようこそ、人道の港 敦賀ムゼウムへ

このジュニアガイドでは、「なりきって学ぼう、感じよう、驚こう。」をテーマに、館内の展示を分かりやすく、楽しくガイドしていきます。館内の展示と照らし合わせて順番にみていきましょう。

学んだことや、気づいたことは (P10) にメモしよう！

01-1

ガイドの中に登場するこのマークの番号と、下の地図を照らし合わせて、順番にみていこう。

### まもろう資料館マナー

4つのマナーを守って学びましょう



走らない



さわらない



さび騒がない



食べない/飲まない

# 00

敦賀港は、ポーランド孤児・ユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港。この「人道の港 敦賀ムゼウム」では孤児と難民、そして敦賀や日本の歴史を伝えています。それにしても、むずかしい言葉が多すぎる。まずは、言葉の意味から学んでみよう。

## 難民

人種や宗教、政治の考え方などの違いが理由で、自分の国にいると命を狙われたり、ひどい目にあうおそれがあるので、外国にのこされた人のこと。

## 孤児

さまざまな理由で、両親や親戚などの保護者を失ってしまった子どものこと。

## 人道

人として守るべきことや、行うべきこと。捉え方に正解はない。みんなも考えてみよう。

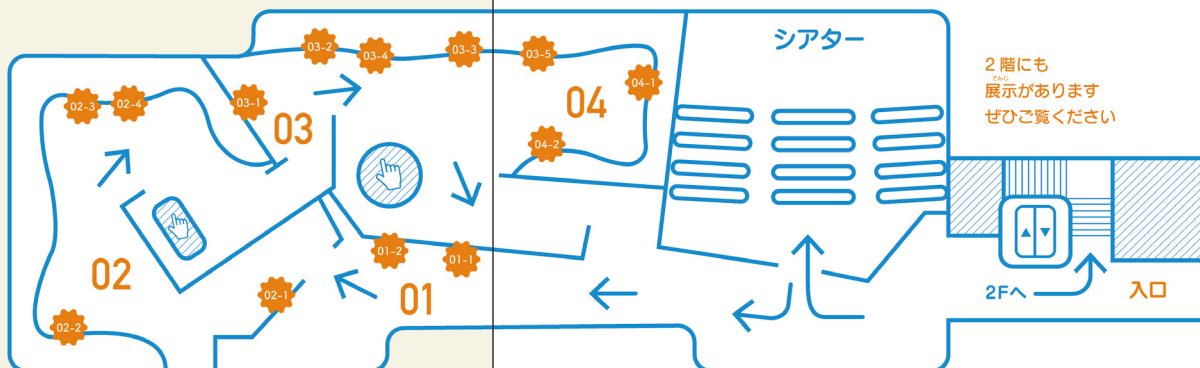
## ビザ

海外へ行くときに、その国の領事館などが発行するもので、パスポートが有効で入国することに問題がないと推薦すること。査証ともいう。

## 1F TSURUGA MUSEUM FLOOR MAP

1F

体験型モニターを覗いてみよう！



1

2

ポイント解説

3 P 01 敦賀市の歴史

敦賀の特産品を問う問題の答えは「おぼろこんぶ」です。冊子や展示の中には明確に答えは提示していません。探究やリサーチのきっかけとなれば幸いです。

01-1 掲載している絵は、かつて敦賀港にあった倉庫を表したのですが、館内には他にも当時の敦賀港の様子が分かる写真や絵が多く展示されています。

文字やジュニアガイドだけでなく、写真や絵にも注目し、学びに役立ててください。

4 P 02 ポーランド孤児について

ポーランド孤児として日本に逃れてきた人々は、後に日本のことを「桜咲く国」と表現しました。

彼らの日本でのエピソードを知り、ポーランド孤児の気持ちになりきってみることで、当時の彼らにとって日本がいかに安心できる場所であったのかを感じ取ることができるでしょう。帰国する際逃げ出したり、日本の国歌を歌ったりしていることから、ポーランドに帰国したくないと感じていた可能性も読み取れます。

01 大陸への玄関つるが

福井県・敦賀市には大きな港があり、日本と世界を結ぶ「玄関」としての役割をこなしていました。そのため多くの人々や物などがこの敦賀を通過して世界へ行き来していたのです。敦賀港の昔の写真には、多くの倉庫や大きな船が写っています。

そんな敦賀では、あるものが特産品として有名です。それは北前船を使って北海道から運ばれ、敦賀で加工・保存されて日本各地で有名になりました。そんな敦賀の特産品とは一体なんですか？



Q 敦賀の特産品はなんだろう？

★ おぼろこんぶ (ひらがな)

Q 答えは揃ってから調べてみよう！

01-2 外国への交通手段が船しかなかった時代は、日本からヨーロッパまで47日間もかかったという記録があるそうです。しかし、欧亜国際連絡列車が通ったことで東京から敦賀を通過してイギリスのロンドンまで17日間で行けるようになりました。

当時の乗客になりきってみる

裏表紙の世界地図を見よう

Q 47日も船に乗っていないといけない… 何を持っていこうか？どんな問題があるだろう？

船酔いしそう、食べ物飲み物大切、暇つぶしのゲーム、など思ったことをそのまま書いて問題ありません。問いに対する明確な答えはありません。

02 ポーランド孤児

02-1 ポーランドのれきし 1772年からの歴史

ドイツ・ロシア オーストリアに国を奪われる → ポーランド国民は抵抗する → ロシア軍により家族まとめてシベリアに移送 → 過酷な労働を強いられる

02-2 ポーランド孤児の救済

アンナ・ヒルケウィッチによるポーランド児童救済会からの救助のお願いは諸外国には引き受けてもらえませんでした。日本政府は日本赤十字社を中心に孤児の救助を行いました。その嘆願書が展示されています。観察してみよう！

観察しよう！ 嘆願書が発行された日付を見てみよう

02-3 日本で一時保護、そして帰国

1920年7月に375人の孤児が、1922年には388人の孤児が船で敦賀にやってきました。ポーランド孤児はここ敦賀から東京と大阪に移動して保護されました。孤児の救済にはたくさんの寄付が集まりました。食事に気を配って、温かく迎え入れたそうです。

さらに詳しく → 天王寺動物園でゾウに乗ったという記録や、ポーランドへ帰国する時に逃げ出した子がいた、帰国する際の船で「君が代」を歌っていたとの証言が残っています。

ポーランド孤児になりきってみる

Q 帰国する前にどんな気持ちで逃げ出したり、日本の国歌「君が代」を歌っていたりしたのだろう？想像してみよう

日本の居心地が心地よく過酷なシベリアに戻りたくない、日本大好き、などの感情が想像できます。シベリアでの状況を参考にしながら想像しましょう。

ポーランド孤児  
このような状況で  
親が死んでしまい  
孤独になった  
子どもたち



アンナ・ヒルケウィッチ

日本の皆さん  
ポーランド孤児を  
助けください…

観察しよう！  
たくさんの方の  
情報が書かれた  
高附申込書綴を  
見てみよう

シベリアでの状況  
平均気温は -20~35℃  
最低気温は -50℃にも！  
耳当てをしていないと、  
目が降り落ちてしまう。  
食べ物もなく、家もない…



ポイント解説

5 P 03 ユダヤ難民と杉原千畝

当館の展示には、杉原千畝氏が発給した「通過ビザ」のレプリカがあります。

ビザの文字をよく見ると紫色になっていることに気づくでしょう。これは、手書きでは発給が追いつかず、途中からスタンプで作成されたためです。

こうした点にも注目することで、当時の状況や緊迫した空気をより感じ取ることができるでしょう。

6 P 人道と命のバトン

<辿ってみよう、足跡サイン>

ムゼウムの館外にも学びの場があります。本館から氣比神宮へ向かう道には、ユダヤ難民たちの足跡をイメージしたピクトグラムが設置されています。これらを当時のエピソードとあわせて辿りながら散策することで、ユダヤ難民が歩いた当時の道のりに想いをはせることができます。詳細は後方ページにて紹介しています。

03 ユダヤ難民

1933年からの歴史

ユダヤ人

「ユダヤ教」を信仰する人やその子孫のこと

ナチス・ドイツによって迫害されたポーランドなどに住むユダヤ人は、国外に逃れました。そのような人々は「ユダヤ難民」とも呼ばれ、やがて敦賀港に上陸し、さらに別の国へ避難することとなります。

03-3

声を聞いてみよう

当時の様子を語る杉原千畝の音が聞けるよ！

迫害とは？ 弱い立場の人を追い詰めて苦しめること。ヨーロッパのユダヤ人約600万人に対する国ぐるみの組織的な迫害および虐殺のことを「ホロコースト」と呼ぶ。(※ホロコーストは学術用語)

03-2 ユダヤ難民を救う、杉原千畝さん

ユダヤ難民たちはポーランドを脱出し、中立国であり、隣国のリトアニアに逃げることとなります。しかしリトアニアにも危険は迫っていたため、当時領事代理であった杉原千畝が苦悩の末、日本を通過する「ビザ」を発給します。

杉原千畝になりきってみる

日本政府から許可も出でず、ユダヤ難民を受け入れることは良くないとされていたため、家族(妻、子3人)含めどのような対応をされるかわかりませんでした。

Q どんな気持ちでビザを発給したのだろう

自分のことよりも難民のことを優先しよう。怖いな、家族心配だな。などが例として挙げられます。実際の杉原のインタビュー音声なども参考にできます。



杉原千畝  
1900年  
岐阜県生まれ  
当時40歳

03-4

ビザを観察しよう

必要な枚数が多く手書きでは間に合わなかったため途中からスタンプで押されているよ！

5



人道を優先したことで多くの命が救われた

▶ 「命のビザ」と呼ばれる

03-5

杉原千畝以外にも、様々な人々の協力でユダヤ難民を救う、「命のバトン」が繋がりました。



ヤン・スバルテンディク

都市名

カウナス

のオランダ領事代理で、難民たちに脱出のルートを示し、リトアニア脱出を助めました。

都市名

ウラジオストク

の日本領事館

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで

都市名

ウラジオストク

から敦賀まで



大迫 辰雄



小辻 節三



根井 三郎

日本領事館？

海外に住む日本人のサポートや日本と海外を繋ぐ役割

辿ってみよう、足跡サイン

人道の港 敦賀ムゼウムから氣比神宮までの道には、敦賀に上陸したユダヤ難民たちの足跡をイメージしたピクトグラムが描かれています。ユダヤ難民が辿った道を巡りながら敦賀の街なかに散策しませんか？ また、ムゼウム前には上陸地点を示す看板と記念プレートが設置されています。上陸地点に立つて当時のポーランド孤児やユダヤ難民の気持ちになりきってみよう！

詳細はこちらのサイトから



6

## ポイント解説

### 7P 04 証言から当時を想像

敦賀で記録された、ユダヤ難民に関する目撃証言や体験談は、敦賀の街や人々の優しさを物語っています。それぞれが特に印象に残った証言を取り上げ、新聞を完成させることで、敦賀の人々の温かさや優しさだけでなく、当時の人々がどのように考えていたかを一層感じられるでしょう。特にりんごのエピソードは、表紙にある問いかけの答えにもつながります。また、展示されている腕時計など、その背景を知ることによって、当時の様子をより具体的に想像できるようになるでしょう。

### 8P 現在も続く各国との交流

旧ムゼウム（現・金ヶ崎緑地休憩所）の周辺や、ムゼウム周辺の記念樹、当館 2 階の映像資料コーナーにもぜひお立ち寄りください。現在も続くポーランドやリトアニアなど関係国及び関係者との交流を通じて、その強い結びつきを感じていただけるでしょう。また、当時ポーランド孤児を出迎え、その後活躍した方の中には、敦賀市出身の外交官である野口芳雄さんがいらっしゃいます。

# 04 人道ってなんだろう

敦賀でのユダヤ難民

ユダヤ難民の上陸の舞台となった敦賀にはたくさんの目撃証言や体験談が残っています。敦賀のまちの人々が優しく接した様子や、布がっていた様子など、気になったものを読んでみよう。

### ★ 新聞記者になりきってみる

新聞記者になりきって、当時の敦賀に上陸したユダヤ難民の様子を伝える見出しをつけて新聞を完成させよう！ ①敦賀の人々の証言から1つ選ぶ ②選んだ証言の展示内容やタイトルをもとに新聞の見出しを書いてみる ③友達や先生、家族と共有する

- 例 「つるがではユダヤ難民にりんごが手渡されました」  
「ユダヤ難民は銭湯に入りリラックスしました」など

ムゼウム新聞

年 月 日

**例) つるがではユダヤ難民にりんごが手渡されました**

ムゼウム新聞  
号外

敦賀の港にユダヤ難民が上陸

福井県敦賀市の港に多くのユダヤ難民が上陸しました。千歳氏によって送られたユダヤ難民は、敦賀の人々に入られたか受け入れられ、敦賀を満喫して、ユダヤ人のリトアニアからの逃亡を手助けしたヤン・ズバルテンディク領事代理や根井三郎領事代理などが協力したことで命のバトンがつかうことができたのです。ヤン・ズバルテンディク領事代理が最終的に上陸したユダヤ人の滞りを決め、根井三郎領事代理が難民たちを日本へ送り出す強い後押しをしました。

南米、上海などに向けて出港します。

### Q ユダヤ難民を受け入れる市民になりきって、自分ならどう感じるか考えてみよう

優しくしてあげたい。少しこわいが、はなしてみたい。一緒のお風呂に入るのは抵抗がある。など正直に書き、なぜそう感じたのかを共有し考えると良いでしょう。

### 04-2 ユダヤ難民たちは敦賀に上陸後、神戸を経てアメリカ、カナダ、オーストラリア、南米、上海などに向けて出港して行きました。

### ★ 各国との交流は現在も続いています。

旧ムゼウムがあった場所（現・金ヶ崎緑地休憩所）を含め、ムゼウムの周辺には様々な交流の証として記念樹が植えられています。

2階では映像資料のコーナーや、平和へのメッセージコーナーがあり、交流の様子を見ることができます。

#### 関係する国をもっと知ろう！

交流のあるポーランドやリトアニアなどとはどんな国なのだろう？調べてみよう！

カードに平和へのメッセージを書いて壁に掛けよう



#### コラム1 孤児たち、再び日本へ！

日本で元気を取り戻した孤児たちはポーランドへ帰国した後も日本のことを忘れず、のちに代表として、イェジ・ストジャウコフスキ氏が感謝の気持ちを伝えるために再び日本を訪れています。さらに、孤児の帰国 100 周年には記念式典などが行われ、孤児の子孫や関係者が来日し、かつて孤児たちが降り立った敦賀にも訪れました。

#### コラム2 孤児の出迎えをきっかけに外交官に！

敦賀出身の外交官である野口芳雄さんは、16 歳のとき敦賀で孤児を出迎えたことをきっかけに外交官を目指すようになったと言われています。のちに野口さんは外交官としてポーランド公使館勤務となり、孤児たちと再会を果たします。孤児の代表者として知られるイェジ・ストジャウコフスキ氏とも固い絆で結ばれていたそうです。

## ポイント解説

### 9 P 05 感じたことを言語化する

ジュニアガイドに関連する問いの一部を例示しています。ジュニアガイドで例示された問いにとどまらず、今後子どもたちの知的好奇心に寄り添った問いを考え、学びを深める機会を取り入れていただければ幸いです。またこのジュニアガイドを通じて発生した問いが今後の探究学習のテーマや、事後学習のきっかけ、自身の興味関心の自覚の第一歩になることを願っております。

### 10P メモ用紙

メモ用のページは設けてはいますが、本ジュニアガイドへ直接線を引いたり、書き込んだりすることを推奨していません。

メモ用のページが不足する場合は、本資料の最後に追加のメモ用紙を用意しておりますので、必要に応じて印刷してご使用ください。

# 05

Learn, Feel, Tell.

## 知る、 感じる、 伝える。

今日知ったことや、感じたことは、家族や友達と共有しよう。  
さらに感じた疑問やモヤモヤは探究へのスタートだ！

- 自分の街にはどんな特産や魅力がある？ 世界の人たちはどのように暮らしている？
- そもそもユダヤ人はなぜ迫害された？ 世界の祝日やお祭りはどのようなものがある？
- 現代の世界で起きている戦争や迫害とは？ 人はなぜ異なる言語を話すようになった？
- 難民ってどうやったら助けられる？ 他の国のことをもっと知りたい！
- 自分の街には他にどんな歴史がある？ 国を超えて働く職業って何があるのだろうか？
- 杉原千畝って一体どんな人なの？ さまざまな国の子どもたちと友達になるには？
- ポーランドってどんな国なのかな？ 他にはどんな人道の歴史があるのだろうか？
- ムゼウムってどんな意味なのだろうか？ どうすれば文化を未来に伝えていける？
- 船や鉄道はどうやって作られるの？ 今の時代も難民っているのだろうか？

### どんな疑問や、モヤモヤを感じたかな？

どんなことでも、人道の港 敦賀ムゼウムをきっかけに感じたこと、疑問に思ったこと、モヤモヤしたことを素直に書き記しておくことで事後学習に結びつけやすくなります。

学びや気づきはメモしよう！



ムゼウムちゃん

## ムゼウム周辺での学習

ご参考までに、人道の港 敦賀ムゼウム館内での学習に併せて、館外で敦賀市について学習することのできるスポットを以下で紹介いたします。

### ・足跡サイン

ジュニアガイドにも掲載していますが、人道の港 敦賀ムゼウムから氣比神宮までの道には、敦賀に上陸したユダヤ難民たちの足跡をイメージしたピクトグラムが描かれています。ユダヤ難民が辿った道を巡りながら、敦賀の街なかを散策してみませんか？

また、人道の港 敦賀ムゼウム前には上陸地点を示す看板と敦賀工業高校の生徒が製作した記念プレートが設置されています。上陸地点に立って当時のポーランド孤児やユダヤ難民の気持ちになりきってみよう！

詳細はこちら：敦賀ムゼウム | 足跡サイン ([tsuruga-museum.jp](http://tsuruga-museum.jp))

### ・敦賀市立博物館（福井県敦賀市相生町 7-8）

国の重要文化財である「旧大和田銀行本店本館」を活用した博物館です。敦賀市内で発掘された考古遺物のほか、中世・近世・近代の文書資料、民俗資料、そして近世・近代の美術資料まで、敦賀ゆかりの資料を数多く収集・保存しています。また、博物館には、ムゼウムでも紹介しております欧亜国際連絡列車の切符のレプリカも展示されております。こちらも併せてご確認ください。

詳細はこちら：敦賀市立博物館 | 重要文化財 旧大和田銀行本店本館 ([tsuruga-municipal-museum.jp](http://tsuruga-municipal-museum.jp))

### ・敦賀鉄道資料館（福井県敦賀市港町 1-25）

とんがり屋根が印象的な敦賀鉄道資料館（旧敦賀港駅舎）は「欧亜国際連絡列車」の発着駅であった敦賀港駅舎を再現したものです。館内では、敦賀の鉄道の歴史を紹介したパネルや貴重な鉄道資料、列車模型などを展示しています。

詳細はこちら：敦賀鉄道資料館 - 旅する港町つるが 敦賀観光公式サイト  
[https://tsuruga-kanko.jp/spot/history\\_culture/railway-museum/](https://tsuruga-kanko.jp/spot/history_culture/railway-museum/)

もし冊子以上にメモするスペースが必要な場合は、

**次のページをメモ用紙としてコピーしてご活用ください。**





ご利用案内は、  
ムゼウム公式サイトを  
ご覧ください。

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

10

人や国の不平等  
をなくそう



16

平和と公正を  
すべての人に



人道の港

Port of Humanity  
TSURUGA MUSEUM

敦賀ムゼウム

〒914-0072 福井県敦賀市金ヶ崎町 23-1  
TEL 0770-37-1035 FAX 0770-37-1036

本ジュニアガイドの無断転載、切り抜き使用はご遠慮ください。

発行：人道の港 敦賀ムゼウム 制作：re/CREATIVE